

特集

あなたの子育て応援します

詳細 健康支援課 ☎(32)6411・子育て支援課 ☎(32)6369

市では、育児に対する多くの取り組みを行っています。今回の特集では、育児に不安を抱え、孤立しやすい妊婦から、子どもの成長に大切な3歳になるまでの子育て支援について紹介します。

子育て環境の変化

近年、晩婚化の進行や価値観事と育児の両立に対する負担の増加など、子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変わってきています。

また、核家族化や都市化の進展は、育児に親族や周囲からの支援を受けにくい状況を生み、子育てをされているお父さん・お母さんの孤立感や不安感を増大させています。

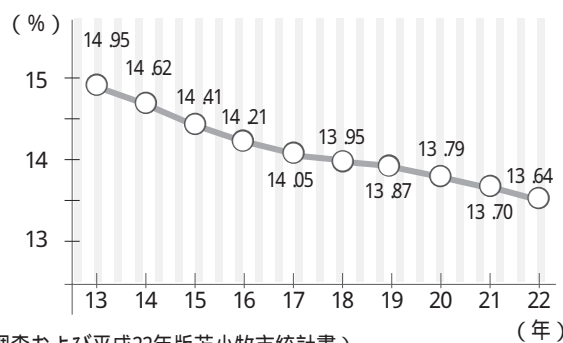
この様なことから、日本全体はもとより、苫小牧市でも少子化がすすんでいます。

苫小牧市の核家族世帯数・15歳未満人口の推移

核家族世帯数

年	核家族世帯数
昭和60年	37,561
平成2年	39,105
平成7年	42,158
平成12年	43,776
平成17年	44,953

15歳未満人口の割合



(市政策推進課 国勢調査および平成22年版苫小牧市統計書)

妊娠期間から3歳まで

妊娠期間中の母親の体調は特に戸惑いを感じる時期かもしれません。また、近くに相談できる人がいない場合は、家の中で過ごしがちな母親が社会から孤立し、育児への負担や不安を一番感じるときではないでしょうか。

一方、子どもの体と心が大きく発達する時期で、「三つ子の魂百まで」の言葉のとおり、赤ちゃんから一人の人間としての個性を確立する大切なときとされています。

苫小牧市の子育て支援

少しでも安心して子育てができるよう、親やその子どもが交流し、相談することが必要となっています。

市では、親の育児の負担や不安の解消を図るため、子育てに関する相談体制の充実に努めるとともに、親同士の交流の場の確保や子育てサークルへの支援などの取り組みを行っています。

妊娠前から、子どもの3歳までの大切な時期を、サポートする事業を紹介します。



～被災地の復興に祈りを込めて～

東日本大震災支援活動

詳細 危機管理室 ☎32-6280

東日本大震災では、私たちが過去に経験したことがないくらいの困難に直面しています。震災により多くの人たちが、家族や友人を失い、故郷を失い、日常生活を奪われました。被災地の復興のため市でもさまざまな支援を行っています

●日本赤十字社による義援金●

3月16日から受け付けていました義援金は4月11日現在で1億629万350円となりました。ご協力ありがとうございます

取扱窓口 ①市役所 総合案内、社会福祉課 ②のぞみ・勇払出張所、豊川・沼ノ端・住吉証明取扱所 ③駅前証明取扱所 ④社会福祉協議会

取扱時間 ①②④ 8時45分～17時15分 土・日曜日、祝日は取り扱いしません ③ 9時～17時 祝日、振替休日、5月3日(火)～5日(水)は取り扱いしません

詳細 社会福祉協議会 ☎32-7111

●支援物資●

被災地からの要請がありました、使い捨て容器、紙おむつなどの支援物資は3月25日まで集められました。支援物資は北海道を経由して自衛隊により被災地へ届けられました

支援物資品目	数量
紙おむつ	52,582枚
簡易トイレ	150個
使い捨て容器	26,511個
割り箸	63,188膳

支援物資搬出の様子

現在は支援物資の受け付けはしていません

皆さんの「たすけあい」の心・復興への祈りを被災地に届けます

●職員の被災地派遣など●

被災地から関係機関(北海道、胆振総合振興局、水道協会など)を通して人的・物的支援の要請が各市町村にあり、被災地への職員派遣が行われています。苫小牧市でも、避難所での対応や救助活動、給水活動のほか下水道処理施設の復旧などライフラインの整備のため、被災地に職員派遣を行っています。また、被災された方々の受け入れとして市営住宅の確保や被災者の相談窓口の開設なども行っています

下水道施設の調査の様子

主な支援の内容

- 救助・救援活動
- 給水活動
- 下水道施設の調査
- 医療救護活動のための救護班派遣
- 避難所支援要員の派遣
- 戸籍・住民基本台帳関係業務被災者に提供可能な住宅の確保

●被災地での支援活動●

～消防本部・宮城県石巻地区での救援活動報告～

被災地の状況はテレビなどの報道で大変な状況であると理解していましたが、実際に現地の状況を目の当たりにして、その被害の甚大さに津波の恐怖を感じました。新潟県や北海道隊として派遣されてきた、他の自治体の消防隊と連携し救急活動、人命捜索活動などを継続して行っています。捜索活動中には、地元の方々に感謝の言葉をかけていただき、あらためて苫小牧、北海道を代表して支援活動に携わっていることの責任の重さを認識しました。

帰苦した隊員によると派遣当初は使用できなかった電気や電話も回復しつつあり、また救援物資の搬送も活発になり復興に向かっていっていると感じました

救助活動の様子

被災地の復興を願い、支援要請に基づき全庁的に支援活動を行っていきます